

# シイタケ菌床栽培におけるミズナラの影響

○佐々木 史, 山内隆弘, 高橋 信, 枝 克昌, 鮎澤澄夫  
(株式会社北研 食用菌類研究所)

## Aims

ミズナラは国内に広く分布し、北海道等の地域では他のナラ樹種よりも一般的に見られるが、シイタケの菌床栽培に及ぼす影響について詳細な確認がなされてこなかった

培地材料の性質は菌床栽培における経営面での重要な要素！ ↓

本研究では、高温性・中高温性・中温性の発生温度特性の異なる3品種を使用し、ミズナラの培地基材としての適性を検討した

## Materials and methods

- ・供試品種として、高温性品種HS73、中高温性品種HS607、中温性品種北研600号を使用
- ・ミズナラのチップと細オガコを容量比7:3で混合し、これに栄養体を重量比で10%添加、含水率を62%に調整後、栽培袋に2.8kg充填し、培地を作製
- ・対照区には、シイのチップとコナラの細オガコを7:3で混合し、栄養体を10%添加したものを培地として供試
- ・HS73とHS607はミズナラに40菌床、対照区に20菌床使用し、北研600号では各試験区に20菌床用いた
- ・20±1℃設定の培養室で各品種の所定日数を培養し、上面栽培方式により6番発生まで管理を行った
- ・菌種接種時と培養完了時の菌床重量を測定し、1菌床あたりの重量減少量を算出
- ・発生した子実体の個数および生重量、菌床状態を調査

## Results

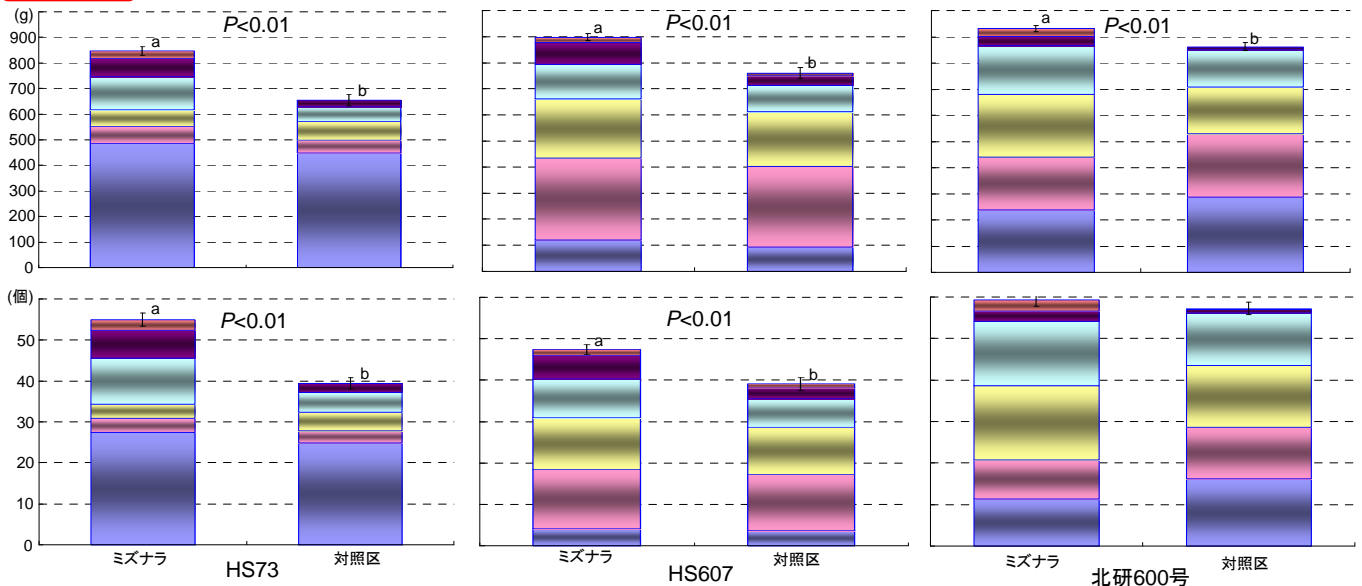


Fig. 1 菌床当たりの収量

異なるアルファベットは有意差を、色の違いは下から発生の順番を表す Mean±S. E.

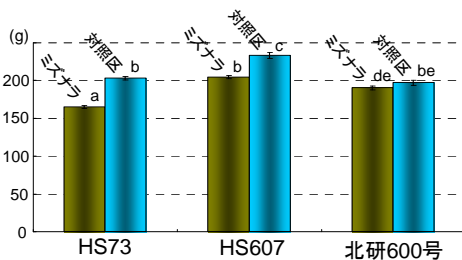


Fig. 1 菌床(約2.8kg)当たりの菌床重量減少量  
異なるアルファベットは有意差を表す Mean±S. E.

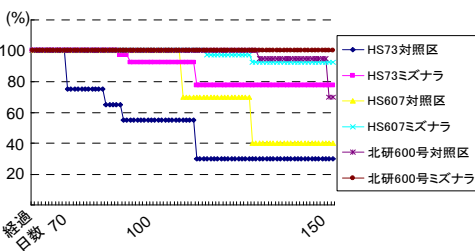


Fig. 菌床残存率



## Remarks and discussion

### HS73とHS607におけるミズナラの影響

- ・個数・生重量共に対照区と比較し1%水準で有意に高くなった
- ・対照区と比較しやや硬く、発生日数が経過しても菌床が傷みにくい
- ・対照区と比較し培養時に培地が分解されにくい

後半の発生に寄与し、それに伴い収量が増加

### 北研600号におけるミズナラの影響

- ・生重量では対照区と比較し1%水準で有意に高くなった
- ・対照区と比較しやや硬いものの、菌床の痛みやすさや分解されやすさはあまり変わらない
- 菌床の硬さが、生重量の増加に影響か

ミズナラはシイタケの菌床栽培用の培地基材として、品種を問わず適している  
ミズナラが他樹種と比較して北海道や東北等の入手が容易もしくは安価な地域においては、積極的に使用することが望ましく、特に長期栽培には適当と考えられる